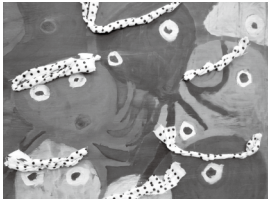
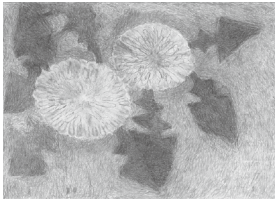


編集委員の選考会にて，来年度（第49巻）のOTジャーナル表紙に選ばれた作品です。



1月号「たこ祭り」 久保宏樹

スポーツの試合中の事故による頭部外傷で四肢麻痺を呈されました。随意性がわずかに保たれている右手を使って何か取り組めることがないかと，2年前からリハの中で絵を描きはじめています。本人の随意性を促しながら毎回楽しくリハができるようにと取り組んでいます。（担当PT：八石 明）



2月号「寄り添うタンポポ」 尾高資祥

きっかけは，脳梗塞発症後，右手が元通りになることに一生懸命であった尾高様に，「絵を描いてみませんか？」と，3つの花瓶を描いていただいたことでした。この作品は，他利用者様が撮影した写真を描きました。色鉛筆で繰り返し色を重ね，温かく優しいタンポポが仕上がりました。（担当OT：森安紀子）



3月号「楽しいひなまつり」 坂本詠太郎

普段から自由帳に好きな絵を描くのが大好きな男の子です。季節の中から3月を選び，本棚からひな祭りの写真を参考にイメージをふくらませて描きました。「七段飾りは…」と参考写真を細かい部分まで眺め描いています。描きながらひなまつりの歌を口ずさめば「♪」マークを描き加えることでそのときの気持ちも表現できました。（れんがの家指導員）



4月号「牡丹と鯉」 松重一枝

脳出血で右片麻痺になり，退院の3週間後に右大腿骨頸部骨折で再度入院しました。何もする気力がなかったとき，息子に「このままではダメになる」と言われ，クロス刺繍を左手だけでやりはじめました。今回の作品は今までで最もサイズが大きく，糸の色数も多いもので，完成に6カ月半かかりました。



5月号「初夏の倉敷」 品川裕永

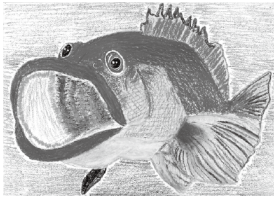
2008年秋，脳梗塞で倒れ，絵を描くことは中断していましたが，リハをしていく中で次第に元気を取り戻し，外出できる喜びとともにスケッチを再開しました。リハを続けることで前向きな気持ちになりました。こういう機会をもてたことに感謝し，これからもリハを継続して頑張っていこうと思います。



6月号「前を向いて生きる」 坂本マキエ

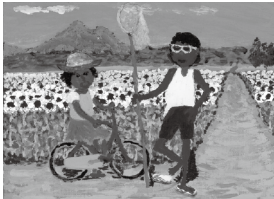
脳出血を発症し左片麻痺になり，泣いてばかりの私でしたが，リハ施設のスタッフの方からの笑顔いっぱい「こんにちは」に励まされ，前向きになりました。そんな中，軽い気持ちで絵手紙を描くようになりました。本当に下手で不器用な私ですが，楽しみながら，また，描くときは無心になれるこの空間を大切にしています。

次年度も募集いたします。どうぞ、奮って御応募ください。（詳細は p1330 をご覧ください）



7月号「大口あかはた」 高橋英作

今回の絵は自分ではなかなか選ばない題材でしたが、職員に勧められた図鑑を参考に描きました。光っている所やヒレのぼやかす所を表現するのが難しかったです。表紙の絵になると聞いたときは「本当ですか!？」とドキッとしました。色々なことをやってみて、みんなから「変わったね」と言われたいです。



8月号「夏休み」 藤原美和

私が小学生のころ、日本は高度成長期を迎え、大きく変化しようとしていました。自由に遊んだり季節の移り変わりを感知することが難しくなったのです。でも、夏休みに両親の実家である会津に帰省したときだけは、目の前に広がる自然の中で朝から晩まで遊びまわりました。そんな懐かしい思い出が少しでも伝わればと思い描きました。



9月号「おつきさま」 堂園 学

指定障害者入所施設の自閉症入所者が描いた作品です。この優しく穏やかな表情は、本人の個性が表れているように思います。でき上がった作品を見たときは、優しい気持ちになり癒されるようでした。この作品を見た方々が優しい気持ちになっていただけたら嬉しく思います。（担当生活指導員：田中美紗都）



10月号「4年目の秋～とんぼ～」 井戸田良子

「誕生日の 思いがけないプレゼント 本の表紙に 切絵選ばれ」

こんな短歌も生まれました。左麻痺になり4年が過ぎ、リハの先生方に励まされながらいつしか切絵が趣味になっておりました。材料はチラシですが、形を変え続けられそうです。今回はOTの北山先生の勧めで大作を初めてつくることができました。



11月号「ぶどうの葉」 佐藤眞佐子

十数年前。秋も深まったある日、ぶどうの葉を拾い、実物大で描きました。顔彩という日本画の初歩の絵の具と出会い、絵を描くのが楽しくて仕方なく、ご飯をつくるのも忘れて夕方まで描いていて、仕事から帰ってきた夫が「まるで貼り付けたようだね」と言ったのを覚えています。今回表紙に採用されてとても嬉しいです。



12月号「竹藪の家」 長尾 弘

両親人工関節の手術のため1カ月あまり入院。その間に嫌なことがあり、うつ病状態になって、退院後デイケアあゆみに通所しています。職員の親切な介護で癒され、作品づくりを始めました。この作品はその中の一点です。その後精神面は安定し、現在もボケ防止のために作品づくりを継続しています。